

TIRI NEWS

Eye

Vol.60

株式会社ツインエコ

新しいビジネスモデルを創出できる可能性を秘めるおしゃべり電球

特殊照明の企画・製造・販売を行う株式会社ツインエコは、再生する音声をユーザーが変更できる「おしゃべり電球」を開発しています。ありそうでなかった製品は販売店からも注目を集めています。

開発のきっかけはユーザーの声「音も出れば、もっと便利」

(株)ツインエコは、ソーラーエネルギーだけで利用できる懐中電灯など、特殊照明を専門とした企画・製造・販売会社です。2017年には、人感センサーを搭載した自動点灯照明を開発し、販売していました。

「自動で点灯・消灯ができるLED電球の販売は好調でした。しかし、類似製品が多数市場に投入されたことから、価格競争になってしまい、新しい商品の開発が必要でした」(早田氏)

「おしゃべり電球」を開発するきっかけは、通信販売のユーザーの声だったといいます。部屋の出入りに自動点灯LED電球を使用していたユーザーの「灯りが点灯するだけでなく、音も出れば、人の出入りに気づきやすくなる」というコメントを読んだ早田氏は、さらに工夫を加えることを考えつきました。

「チャイム音だけでなく、『いらっしやいませ』などの音声も再生できれば、面白いのではな

いかと思いました。また、再生する音をユーザーが自由に変更できれば、さらに便利に使ってもらえると気づきました」(早田氏)

人の動きを感知して、照明を点灯させたり、音声を再生するしくみはそのほかにもありますが、これをLED電球に搭載し、さらにユーザーが音声を変更できることが「おしゃべり電球」のオリジナリティーです。

開発にあたってはLEDから発生する熱をいかにして電球内部から逃がすかが課題でした。内部の温度が上がると、メモリーや音声再生装置が誤動作するためです。この課題を電球内部の空気の流れを制御することで解決し、特許を取得しました。

規格のクリア、アプリ開発など製品化に向けて開発を加速

「おしゃべり電球」は特別な機器を用意することなく、既存の電球のソケットに取り付けるだけで使用できるのが特長です。再生する音声の記録や再生回数、点灯時間や消灯ま



スピーカーなどが収納されている部分には模様やキャラクターを印刷できるので、外面のカスタマイズが可能。

でのタイミングなどは、開発中のスマートフォンアプリから行えるようになる予定です。

「スマートフォンとおしゃべり電球を無線通信で接続して、音声の登録や各種設定を行えるようにします。無線通信なので、天井に取り付けられている電球でも、手元のスマートフォンから手軽に設定を変更することができます」(早田氏)

早田氏はこれまでの家電にはなかった新しいビジネスモデルが「おしゃべり電球」では可能になると考えています。防犯や店舗での接客、観光地での案内などでの活用のほか、「おしゃべり電球」用の音声を販売することも視野に入れています。

「月額制で新しい音声を毎月配信するなど、これまでにほとんどなかった家電でのサブスクリプションモデルが可能になるかもしれません」(早田氏)

「おしゃべり電球」の可能性は大きく広がっています。



人感センサーを2つ搭載して、人が通る方向を検知したり、AIカメラと連動することも可能。



天井設置例。



株式会社ツインエコ
代表取締役
はやた たかし
早田 孝司 氏

「展示会での反響は大きく、大手家電量販店からは、製品化されたら販売したいという声もいただいています。2021年の上市を目指して、製品化に取り組んでいます」